

コメント (総合討論から)

大阪府立大学大学院生命環境科学研究科教授 上甫木 昭 春

A suggestive comment from the comprehensive discussion. Akiharu Kamihogi
(Graduate School of Life and Environmental Sciences, Osaka Prefecture University)

今日のフォーラムのテーマ「ネットワーク活動の方向性を考える」ということですが、ご意見がいろいろ出て、やはり大阪湾にはいろんな課題が混在しているんだな、というのがひとつここで再認識したことです。そこで今日のテーマに沿って私なりに意見を述べさせていただきます。

先ほど矢持先生がおっしゃったプラットフォームを作るというのは非常に重要なお話で、それに向けた動きを今回確認できればいちばんうまいなと思うのですが、もうひとつは「大阪湾見守りネット」と「大阪湾環境再生連絡会」との関係も考えていく必要があるだろうと思います。聞くとところによると大阪湾再生推進会議は10年間活動することですが、今ちょうど5年経っていますので、少なくともこれから5年間は再生連絡会の方でもいろんな情報交換の機会が与えられることでしょう。再生連絡会というのが公的な役割を持った場であるのに対して、見守りネットというのはプラットフォーム的な役割をもっていると思います。プラットフォームというのは、余り責任がないといえますか、まあ言いたい放題の場なのですが、私の提案はプラットフォームとしての役割を持つ

ている見守りネットが、連絡会のメンバーに入ったらどうかということです。そのことによって見守りネットでいろいろ議論して、あるいは話題になっていることが連絡会に到達する、そうするとまさに公的に認められた組織の中でいろんな可能性が見えてくるようになるのではないかと思います。

我々見守りネットでは、ここ4~5年言いたい放題でやっているわけですけど、なかなかそれをそのままにしておくのはもったいない気がします。今日でもいろんな意見が出ていますが、そういうことも考えながら、見守りネットとしてミッションを再生連絡会に上げていく、できることとできないことがあるでしょうが、そのような枠組みの中でこれからの5年間でやってみたらどうかと思います。

そのようにして活動する中で推進会議がさらに次の段階に進めばよいのですが、進まない時にはプラットフォームという形で再構築をする、でもその時にはずいぶん輪が広がっているのではないのでしょうか。

